

主な内容

新会長に鈴木莊太郎さん就任	(1)
2期6年間を振り返って	宮田前会長 (2)
総会、懇親会報告	(3)
獨協の思い出	(4)
私の近況	(6)
クラス会だより	(10)
母校近況	
DOKKYO MEJIRO Vol. 1より	(14)
永井伸一校長よりメッセージ	(15)
事務局だより・編集後記	(16)

「獨協通信」は同窓生により編集され、同窓会費で作成されている同窓会報です。

なお、獨協中学・高等学校同窓会ホームページもあわせてご覧ください。

(http://www.dokkyo-mejiro.com/index_content.html)



第 67号

平成18年12月10日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1
TEL/FAX 03 (3946) 6 3 5 2 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 鈴木 莊太郎

新会長に鈴木 莊太郎さん就任 抱負を語る



鈴木新会長(左)、宮田前会長(右)(平成18年度同窓会懇親会にて)

本年6月の同窓会総会において、120年余の歴史と伝統を持つ「獨協同窓会」の会長に選ばれましたが、昭和35年に高校を卒業して以来、同窓会活動と言えることは殆ど行っていませんでしたので、誠に思い掛けない事でありました。今回、同窓会長をお受け致しましたが、同窓の皆様のご支援を頂いて、何とか役目を果たしたいと考えております。

今までの僅かな同窓会活動としては、卒後30年目に開かれた「昭35年卒の旧交を温める会」の集まりが発端となって、1999年に昭和35年卒の荒川泰行、藤田実彦、松島正浩と私の4名で「獨協学園Doctor's Club(本文ではDDCと略)」を発足させた事が思い当たります。発足の経緯に関しては、同窓会のホームページにリンクされており、前任の宮田会長が同窓会誌に紹介しておりますが、本来の目的や組織形態について、より正確に知って頂きたいと考え、改めて当事者として説明させて頂きます。

先ず、DDCは会長や会則はありません。獨協学

園出身のDoctor達が親睦深めて、母校への支援を一致団結して実行しようと集まったものであります。第1回目の発会時には、当時の菅野同窓会長ならびに奥田校長のお話を頂きました。その後も永井校長、宮田会長のご参加を頂き、毎回校長より学園の状況をお話し頂き、OB達には学園の現況を詳しく知る機会になりました。1回目、2回目と、講演会ならびに懇親会を通じて話が盛り上がり、相互理解が深まり、共通認識の上に立って、各出身大学の「獨協同窓会」が開催を交代で担当することになり、本年度7回を数えました。因みに現在までの開催担当は東邦大学、日本大学、獨協医科大学、日本医科大学、東京医科大学、北里大学、聖マリアンヌ医科大学で、次回は帝京大学の予定であります。現在では開催を担当した各大学の「獨協同窓会」から幹事が出て、合議で会の運営を行う体制となっております。また、毎回開催時に会費の一部を母校に寄付することが恒例となっています。

私個人の想いを述べますと、大学に入学した時には、全く誰も知らない未知の世界と思っていたところ、同期に獨協の同窓生が4名おり、先輩にも各学年に数名の同窓生が在学しておりまして、懐かしさと安堵感でほっとした思い出があります。その後、後輩にも同窓生が増え、学生時代から卒業後に学内の獨協会が何度か開催され、多くの先輩や後輩達と親しくお付き合い頂きました。先輩の中には前任の奥田千秋校長が、当時、麻酔科の助教授をされており、闊達明快な講義や臨床実習の指導を受けたことを思い出します。DDCの発起人となった荒川、藤田、松島君達も各々の大学において、獨協同窓会を開催しており、間接的な情報として、関東の殆どの医科大学と医学部において「獨協同窓会」が開催されてい

る状況が明らかになってきました。また、関東の名門私学である麻布、開成、栄光などの各校においては、同窓生が社会の各分野で種々の職種において同窓会を持っている状況を耳にしました。今後、DDCだけではなく、種々の分野で活動している仲間同志の「獨協同窓会」が活発になれば幸いと考えております。勿論、「獨協同窓会」としては、中核は卒業年度毎の同窓会であり、DDCの様に学年を超えた横断的な同窓の集まりが、同窓会の活動をより多彩で充実させていく可能性があると考えております。

さて、今年度の同窓会の活動方針に関しては、諸先輩が培われてきた同窓会を受継ぐことが基本と考え、また前宮田会長が財政再建を中心に整備された体制を堅持していくことが努めと考えております。今秋の国会では、5年以上の長期政権を担当した小泉首相から戦後生まれの安倍首相に政権が交代されましたが、安定政権の維持を如何に行うかなどは、歴史のある本同窓会の活動には参考になるのではないかと考えています。

本年7月には学校法人獨協学園の理事・評議員を拝命し、理事会・評議員会へ出席する機会を得ました。会議においては、これから学園が対応を迫られている諸問題（少子高齢化による学生数の減少、教育・研究における質の確保、学園経営の効率化など）への対応を伺い、改めて同窓会が学園に対して果たす役割を具体的に求められていると感じております。今後、同窓の皆様のご意見を集約し、叡智を結集して学園の繁栄に貢献する事を目標にしたいと考えております。どうぞ皆様、宜しくご支援の程を、紙面を借りてお願い致します。

2期6年間を振り返って 宮田前会長からのメッセージ

このたび、2期6年の任期を終え、新会長にバトンタッチ致しました。在任中は関係各位の温かいご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

前会長菅野朗氏の後をうけ、同窓会長に就任したのが平成12年（2000年）。介護保険制度がスタートした年であり、イチローがメジャーのマリナーズ入りをした年で、ミレニアムとして、新しい世紀への期待がふくらんだ年でありました。

同窓会も、念願の同窓会室の設置に、事務局員の

駐在と、漸やく活動の連絡拠点を確保することが出来たところで、新世紀に臨み、内部体制の整備充実にも努めました。執行部の皆さんのボランティア精神のお蔭で、いささか成果があったのではと思っています。

母校への財政援助としては、新校舎建設のための寄付金募集の一環として、積立金を4000万円取り崩し、さらに平成15年には、創立120周年事業（奨学金制度新設）補助のため、1000万円の寄付を行な

いました。これは、同窓会として本来の目的に沿ったものでありますが、この結果、積立金は半減し、財政の立て直しが急務という状態になったと言わざるを得ません。

学校当局には、「獨協（目白）に明るい未来を」そして「自分の子や孫を是非入れたいと思う学校に」と、期待を寄せていますが、その後援をするためにも、財政基礎の強化、立て直しが不可欠でありましょう。

情報化時代の進展で、時代は確実に変化しています。平成16年にホームページの開設を行ないましたが、今後これをどのように運営してゆくのか、又個人情報保護法の施行で、同窓会の財産であり、

レーゾン・デートルでもある個人情報をもどのように管理し、活用してゆくのか。獨協通信66号でも採り上げていますが、優先課題の一つとして、会員の英知を汲み上げ、議論を尽くす必要を痛感しているところです。そして、「同窓会に関心を持ってもらうにはどうしたらよいか」という永年の課題の解を積み残したまま、時間切れとなってしまったというのが実感です。

6年間というのは、長いようでもあり、振り返ってみると短かったようにも思えます。新執行部よろしく願いいたします。鈴木新会長をはじめ皆さんの活躍をお祈りいたします。

06年度総会の報告並びに懇親会の模様

2006年度獨協同窓会総会が、2006年6月17日に母校小講堂で開かれました。

議事に先立って、新たに判明した物故者の氏名が報告され、故人の冥福を祈って黙祷を捧げました。

議事では、1. 2005年度収支決算案及び事業報告 2. 2005年度収支差額金処分案 3. 2006年度事業計画案及び収支予算案の三案が承認されました。なお、1. 会員意見を基にした事業の運営の確認 2. AED（自動除細動装置）が本年度になってから同窓会から学園に寄贈の報告が本年度事業計画に付け加えられました。3. 役員改選では宮田会長の任期満了に伴い、次の各氏が新たに選任されました。

会 長	鈴木 莊太郎（昭和35卒）	新任
副会長	森上 克彦（昭和47卒）	再任
監 事	大場 莊介（昭和23卒）	再任
監 事	合田 憲（昭和38卒）	新任
幹事長	中村 昭美（昭和41卒）	再任

また、宮田会長を名誉会員に、中嶋前監事を功労会員に推挙することが満場一致で決められました。この後、鈴木新会長が就任の挨拶を行いました。学校からは永井校長が学園の近況を報告され、総会は一時間で終了しました。

総会に続いて、6時30分より椿山荘で懇親会が盛大に開かれました。本年は会場が昨年と急に変更になり、少々混乱したことをお詫びします。会員70余名、永井校長、現・旧教職員など120余名の出席で盛大でした。宮田会長の挨拶、寺野理事長、永井校長、梶山獨協大学学長ら来賓による祝辞が

あり会にはぎやかに始まりました。毎年のように無量田蔵六氏（1945卒）のバンドによる音楽がバックに流れて、獨協同窓会らしい懇親会となりました。

来年は6月16日（土）の開催となります。今から予定に組み込んで頂くようお願い致します。

年度幹事の選出を各卒業年次で

同窓会は会則によりますと年度幹事120名を持って運営されることとなっていますが、最近年度幹事のなり手がなく会の運営に支障をきたすようになっています。とりわけ平成になってから卒業された卒業生諸君の参加が悪く、若い世代の声が会の運営に反映されにくくなっています。勿論若い世代の方たちは学業や職場あるいは私生活で多忙を極めていることとは思われますが、同窓会の活動は母校の発展にも寄与するものです。是非とも各学年2名の年度幹事を選出するようお願いいたします。幹事は年2回の土曜日の夕刻に開催される幹事会への出席が主たる役割です。昭和卒の学年でも欠員が多くあります。ご協力願います。

春の同窓会日程

常任幹事会	4月21日（土）	母校小会議室
幹事会	5月12日（土）	市谷アルカディア
総会・懇親会	6月16日（土）	母校小会議室 椿山荘

獨協の思い出

昭27年卒 朝比奈 貴次

まずは私の自己紹介をして置きましょう。私は昭和7年7月28日生れの浅草っ子。仲見世「静岡屋」の三代目、三社の神輿を担いだ生っ粋の江戸っ子です。

獨協へ入ったのは中学3年の時です。我々の中学入学時期は大変な時代で太平洋戦争の真っ最中、日本が連合国軍に追いつめられ沖縄をとられ、本土決戦を覚悟した時代でした。小学生は集団疎開をさせられ、私の浅草小学校は宮城県の作並温泉へ疎開しました。その後途中から縁故疎開に移り栃木県の田沼町へ疎開をし、終戦を迎えました。そこで県立佐野中学（旧制）へ入学し、三年になる時、浅草へ戻ることになったので獨協へ転向して来たわけです。当時の獨協は木造校舎の古い建物だったのですが、なかなかモダンな建物だったと思います。私は三年一組に編入し、物理の田中先生が担任でした。当時私は佐野中学時代にバスケットボールをやっていたので、仲間を集め部を結成し、顧問に田中先生が成ってくれました。当時獨協には屋内体育館がなかったので、近くの学校の体育館を借りて練習をしたものです。部員は鈴木君達10名位はいたと思います。そんな中学時代を経て高校時代になるわけです。高校はクラス制ではなくホームルーム制で、私は数学の北村ル



写真1

ームへ入りました。3年の時、北村ルームで箱根方面へ1泊2日のハイキング旅行に行き、先生の実家へ宿泊させてもらい、次の日にいちご狩りを

楽しませていただきました。写真1は箱根乙女峠の頂上で写したものです。後列右から3人目が北村先生、1番右が後輩で獨協通信の編集をやっている佐藤明德君、私は前列右から3人目、私の



写真2

高校時代の思い出はテニス部と工作部です。テニス部は私が浅草でテニスをやっていた関係で、中学のバスケットボールの仲間全員でテニス部へ入部しました。当時中原さん田中さん両先輩の指導を受け、いろいろの大会へ出場し、結構良い所迄勝ち進んだ事もありました。私の前衛は松本君。他にも宮本、塩田組、岩田、佃組。この3チームが主体となって対校試合等を行って来ました。写真2は我々が3年の時に獨協のテニスコートで撮ったものです。私は前列左から2人目、後列3人目に先の佐藤君がいます。テニス部是和気藹々とした楽しい部で、先輩後輩一緒に旅行等にも行き



写真3

ました。写真3は湯沢温泉へスキー旅行をした時



写真4

の写真で、私は左から3人目1番態度の大きいのは後輩の大沢（旧姓小野）君です。

次に工作部の思い出を話しましょう。部は図画の仁江田先生の指導の元で行われ、部員は7～8名いましたか。作品は独創的なもので「お寺」「茶室」「駅舎」「住宅」等と勝手な作品を作りました。一度東京都の私立高校工作展があり、そこへ出品した事があります。提出日程があまり無かったので、数日間の徹夜作業を部室の二階で、コッペパンを齧りながら行

いました。作品展はお茶の水の湯島聖堂で行われ、塩田君の作った宗吾霊廟の作品が支部長賞を取る事が出来ました。

写真4はその時私の作った住宅です。ちゃんと扉も動きますよ。以上のように獨協時代は勉学の思い出よりクラブ活動の方がいろいろと思い出されて来ます。

私は大学進学に当り商人の倅なので大変悩みました。と言うのは理系であり家の模型を作るのが好きだったので建築の道へ進みたかったのです。やっと親の承諾をとり日本大学の建築科へ入学する事が出来ました。

その後建築の道へ進み一級建築士の資格を取り、いろいろな建物の設計をして来ました。60歳で建築関係を卒業し、今は仲見世の店番をしながらゴルフ、旅行と余生を楽しんでいます。

獨協同期のクラス会「二七会」はずっと続けており、今でも大久間先生が御出席して下さいます。**写真5**は昨年大久間先生を中心にして撮ったものです。

最後になりますが、私達の卒業後天野貞祐先生が獨協大学を造り、更に医科大学も出来、伝統ある獨協がますます発展している事を大変誇りに感じている者です。



写真5

私の近況

○残念ながら都合悪く欠席致します。御盛会を祈ります。

高田 渙（昭14卒）

○福祉。昭和10年～13年まで獨協サッカー部に在籍、当時殆ど中学校にはサッカー部が東京都内でない時代を楽しんでいました。獨協通信の中で、サッカー部の記事が目にとまりましたので一筆申し上げます。

渥美 節夫（昭14卒）

○在学中は音楽部にて部活、戦時下で、軍楽隊（陸軍）に入隊時の経験で現在、弦楽器をたしなみアマオケで趣味を生かしての毎日です。

小澤 武彦（昭14卒）

○ここ数年 Kamerad（同窓生）が相續いて亡くなり寂しい限りです。85歳。

駒木 実（昭14卒）

○中学卒業後、60年余たちましたが無事平穩に過して居ります。「獨協通信」毎回懐かしく拝見致して居ります。同窓会役員の皆様のお骨折りを感謝致しますと共に学園の益々のご隆盛をお祈り申し上げます。

桑島 照（昭14卒）

○ご盛会を祈念いたします。ご連絡を感謝致しております。

三田尾 顕（昭16卒）

○ここ数年体調悪くしていますが、獨協通信をみるのが楽しみです。

澁澤 太郎（昭16卒）

○歩行が幾分遅くなりましたが、毎日出社して頑張っております。

倉谷 三男四郎（昭16卒）

○去る5月16日、母校前の椿山荘で昭17卒の山紫会をやり21名が出席し卒業後64年振りでお会い出来た同窓生が居り、非常になつかしかったです。

山口 勝（昭17卒）

○区の図書館へは毎週一度は行きます。テレビで天皇の映像が出ると、当時通学途中、学習院辺りで皇太子を乗せた車に出会い、敬礼すると、礼を返された事を思い出します。

安藤 能久（昭17卒）

○目下のところ足だけは自信があり、国内旅行を専ら楽しんでいます。

桜井 保光（昭17卒）

○獨協大学の予科に満足せず、進学校を目指す様、学校当局に建議して頂きたい。

山下 英一（昭18卒）

○中高年就業相談所紹介エードファミリー（有）エード（株）清掃員。ビルメンパート（時給）月曜、木曜、土曜出勤社員、恥ずかしながら生活の為仕事に行っている。お願いします有難うございます。

元気です。

野末 茂俊（昭18卒）

○健康です。隠居生活を満喫しています。

窪田 三朗（昭18卒）

○体調不良で殆んど寝たきりになっていますので、あしからず。

北村 光夫（昭18卒）

○糖尿病と診断され、現在インスリンを打ちながら血糖値を下げる努力を続けています。

佐藤 昭（昭19卒）

○病妻の介護。

永井 福助（昭19卒）

○温泉医学の解説と普及につとめています。

植田 理彦（昭19卒）

○無職。平成17年6月、左足骨折してから歩行困難となりました。

大内 昭治（昭19卒）

○学級は二組、担任は相沢先生（相藍？）成績順に後部座席、廊下側から平山、当間、小板橋……島と続く。あれは島の姉さんだぞとボン女の近くで誰かが叫ぶ、背がスラリと高かった。中学2年頃か。

桑原 和彦（昭20〈4〉卒）

○ヤーコプ・ザール先生にドイツ会話とドイツ国歌、野バラなどを習い、私の人生の基礎となる体力、知力を培って頂いたことは、喜寿を過ぎた今になっても深く感謝しております。旧制時代の教育は最高でした。

青井 保男（昭20〈5〉卒）

○元気で頑張っています。

大井 渙（昭20〈5〉卒）

○地方公務員を退職17年になりましたが元気で北国の生活を楽しんでいます。秋は城を中心とした旅行に励み内地は殆んど廻りました。

眞船 順（昭21卒）

○獨協通信「私の近況…卒業ン十年」同級生からの寄稿分も読ませていただき感謝しております。ありがとうございます。

服部 忠男（昭21卒）

○写真と俳句を楽しんでいます。

白井 一男（昭25卒）

○健康です。週2回小学生の学習指導をしています。元気がよいと自宅から全行程歩きで1日中歩いていることがよくあります。

根来 恭雄（昭25卒）

○毎年グループ有志にて、小旅行を実行して居ります。

田中 重穂（昭26卒）

○昭和27年高卒の同期会「花の二七会」の今年度幹事を仰せつかり、18年6月23日開催のため目下

私の近況

奮闘中です。出欠ハガキの近況を逸早く読める楽しさは幹事の特権と知る。返信は出欠に拘わらず必ず投函すべし、これ常識とわきまえる。

筒井 昭 (昭27卒)

○大澤孝教君を先達として月一回の鎌倉史跡めぐり、往時暴れん坊の面々も、お互いの近況などを語りながら、そぞろ歩きを楽しんでおります。

鈴木 孝男 (昭28卒)

○古希も過ぎ、アマチュア無線、パソコン、ウォーキングで日々自適に過しております。

井上 正明 (昭29卒)

○三寿会も平成17年4月同窓会を森田、坂本幹事のもと飯田橋で丸山幸三郎君が始めて出席されました。同期の長畑氏脳こうそくでお会い出来ませんでした。30年卒、水谷潤君の消息わかりますか？

梅田 博 (昭30卒)

○自宅で犬の散歩をするのが私の日課です。

澤井 光紀 (昭31卒)

○6月21日、富岡先生ご夫妻出席されまして椿山荘にてなごやかに懇親会を開催致しました。

小倉 宗武 (昭31卒)

○千葉市農業委員3期目です。農家を応援しています。

鈴木 武夫 (昭32卒)

○厳しい環境にあっても、医師を目指した初心を忘れずに仕事に励んでいます。東京区内にあっても出産をつづけていきたい。

田中 雅治 (昭33卒)

○女性と若者の為に JR 熊谷駅ティアラ21ビルの5Fに、ティアラ21・女性クリニック・ドクターまさみの思春期オープンハウスを開院。よろしく！

中山 政美 (昭34卒)

○ワールドサッカー初戦の地カイザースラウテルン市で5月、100 mのジャンボ鯉のぼりを遊泳させるイベントを成功させました。

赤松 邦彦 (昭34卒)

○本年3月をもって社長を辞任し年金生活に入りました。

西部 曠介 (昭34卒)

○TBSラジオゆうゆうワイドのパーソナリティーとして毎朝声を出しています。お聴き下さい。

大沢 悠里 (昭34卒)

○寝た切り老人(97歳の母)の介護の日々です。介護が出来る喜びをかみしめております。

渡部 亨 (昭35卒)

○昨年より分娩をやめました、やっと自由の時間を楽しんでいます。最後のチャレンジで昨年マンションを建替えました。念願の30畳のダイニングをもてました。

津久井 強 (昭35卒)

○毎年クラス会を開いております。

磯田 一 (昭36卒)

○「獨協36会」として毎年5月第4土曜日にクラス会を行っており、毎回25人位の参加があります。大久間慶四郎先生も元氣にご参加下さいます。今年は5月27日に行われます。

高杉 秀夫 (昭36卒)

○昨年より家庭菜園を始めました。先ずは土作りと真夏の太陽の下励み、その結果、冬から初夏にかけてそれなりの収穫がありました。晴耕雨読ならぬ、晴耕雨酒です。

黒崎 政男 (昭37卒)

○2年前より人工透析となりましたが元気に過しております。

橋本 設夫 (昭37卒)

○パートで働いているのですが、1年に1回の契約が半年に1回になり厳しくなりました。3日に1回のナイトパートです。

神戸 雅一 (昭39卒)

○2005年10月にクラス会を開催しました。今年も皆還暦を迎えるので開催予定です。

佐藤 忠一 (昭39卒)

○昭和47年に新妻犬猫病院を開業して34年、昭和48年に結婚して33年、子供達は元気に働き、孫は走り回っています。

新妻 勲夫 (昭39卒)

○元気にして居ります。

茂木 信一 (昭41卒)

○現在獨協歴史ギャラリーの建設をすすめています。これを機に、獨協関連の諸史資料(生徒の学園生活に関連するもの)をさらに募集したく思っています。とくに、戦前、戦中のもの協力願いたく『獨協通信』誌面にてとりあげていただくと幸甚です。

新井 孝重 (昭43卒)

○55歳をすぎましたが、毎回楽しみに獨協通信を拝見させていただいております。

工藤 英知 (昭43卒)

○英、独でSCRABBLE(P.C.ゲーム)をやっています。単語を増やすのにいいですよ。

佐々井 俊一 (昭44卒)

○総会・懇親会を平素欠席する事に非常に申し訳なく思います。また、会費は平成19年を予定にしています。誠に申し訳ございません。

私の近況

鯉沼 秀夫（昭44卒）

○今年度のミス日本コンテストで、下の娘が準ミスになりました。

郡司 正之（昭45卒）

○元気です。

高島 保徳（昭45卒）

○日蓮大聖人の仏法を実践して、幸せな日々を送っております。皆様もぜひ信心を。

高月 美光（昭47卒）

○日本橋小伝馬町で法律事務所を開業しています。裁判所の調停委員、破産管財人等で忙しくしています。

戸崎 透（昭47卒）

○ドイツ語クラスを卒業して、34年。53歳になった今日またドイツ語を始めました。新しい独和事典も買い込みました。

難波 潤（昭47卒）

○現在結婚ヲ前提ニ交際致シ居ル女性ガイマス、晩年ニ至ツテヤツト安心立命ノ境地ニ至リマシタ。

斉藤 文男（昭47卒）

○糸井先生はお元気でしょうか、住所がわかりません。

田原 理一郎（昭48卒）

○最近体調も良く、元気に活動しています。

渡辺 哲之（昭49卒）

○伊豆大島で、「ホテル椿園」旅館を経営しております。皆様どうぞお遊びにいらして下さい。

清水 豊典（昭49卒）

○いよいよ、今年は息子も大学受験生、家庭内の空気も緊張度が高まっているようです。希望する大学に合格すればよいのだが…。

田中 謙光（昭50卒）

○おかげさまで4代目を継ぐべく息子が今年、日大松戸歯学部に入學いたしました。

生田 哲（昭50卒）

○獨協学園卒業のした医師の親睦会「獨協学園ドクターズクラブ」を毎年2月に開催しています。案内に来てない方は御連絡下さい。

<http://www.ddclub.net> **谷田貝 茂雄**（昭51卒）

○3Kの産婦人科診療所でふんばっています。

五十嵐 俊夫（昭53卒）

○病院を継承して10年になります。警察、消防、医師会での役職も多く、超多忙な毎日です。

野村 芳樹（昭54卒）

○2006年7月クリニック（私：内科、小児科、妻：眼科）を開業しました。

和賀 一雄（昭55卒）

○2005年1月に転職し、南町田病院にて内科部長をしております。

勝谷 雅昭（昭55卒）

○5年前に小児科医院を開業しました。医師会にも獨協の同窓生が多くなつかしいとともにどこか安心感もあります。

下山 丈紀（昭56卒）

○6月より実家3代目院長となりました。世間知らずなもので診療外業務が大変です。

武井 和夫（昭57卒）

○東京を離れもう24年。獨協の頃のなつかしい仲間にも会いたいと思う今日この頃です。お世話になった数学の金先生にもお会いしたいです。

鈴木 一成（昭58卒）

○卒業して23年。元気にやっています。子供（娘）も高校卒業です。獨協時代なつかしいです。

鈴木 雅博（昭58卒）

○都立農業高校で社会科の教諭をしています。

岡田 博彰（昭59卒）

○東村山歯科医師会で1年後輩の獨協生がいました。嬉しかったです。

細野 正博（昭60卒）

○いつもいつも本当にありがとうございます。獨協の友人とは今でも当時のまま…という訳にはいきませんが楽しくつきあっています。

岡本 浩一（昭61卒）

○報告が遅れましたが、私、日本ビクターを退職し、理学療法士の資格を取り、療養型病院にてリハビリテーションの仕事を現在しています。

中村 明夫（昭61卒）

○昨年12月より冬期の職場を志賀高原から地元、木島平にうつしました。大会等では、役員として毎日早朝よりゲレンデに立つ毎日でした。今は山菜が沢山とれ、おいしい日々を送っています。2人の子供も元気に育ち、楽しく日々を送っています。

高塚 政人（昭61卒）

○獨協の卒業生であることを忘れず現在の動物病院で頑張っています。いつも獨協通信ありがとうございます。

川畑 剛（昭61卒）

○社名変更もあり、心機一転です。

竹内 和彦（昭62卒）

○今年5月、歯科医院を開業しました。東京歯科大学にも獨協会があり、年に一回たくさんの先生や学生が集まります。

田中 公文（昭63卒）

○現在、長野に転勤し、慣れない生活をすごしています。

奥富 誠（昭63卒）

私の近況

◇家業（神官）の他に非常勤の小児科医、保育園園医、インターナショナル校のヘルスコントローラー etc. をしております。 **山蔭 仁嘉**（平1卒）

◇平成18年2月に昭和大学を退職しミウスキンクリニックを開業しました。〒144-0052 大田区蒲田1-26-14 **森下 宣明**（平2卒）

○新宿NSビルにて3月22日に歯科診療室新宿NSを新規開院しました。お気軽にお立ち寄り下さい。

門上 浩慈（平3卒）
○獨大卒後、同社に入社し勤続11年となりました。同じく獨大卒の社長の元頑張っております。

小林 重信（平3卒）
○父と共に歯科医療に従事しています。先日、スキーに行った際獨協OBの方々と遭遇、とても楽しい一時を過しました。その節は金先生はじめ皆様ありがとうございました。また『くり●●』でお会いしましょう！ **新田 裕介**（平5卒）

○3歳と1歳の娘に囲まれ、賑やかに過しております。**藤島 一郎**（平7卒）
○元気でやっております。5月に結婚しました。

久保田 伊哉（平7卒）
○国家公務員の方の年金や福利厚生を扱っています。

春宮 淳一（平7卒）
○慶大院を卒業し、入社3年目を迎えました。入社後、関西国際空港に配属になり現在は本社部門に勤務しております。毎年バレー部の合宿・OB会に参加し現役獨協生との交流を楽しみにしています。

源 堅一郎（平10卒）
○高校卒業後、仏門に入って8年。現在は埼玉の寺院にて修行中。法務に励んでいます。

稲沢 哲也（平10卒）
鄭 超元（平11卒）
○顧問であった柏葉先生より「ソフトテニス部OB会を作ってみては」とおおせつかりました。何か案のある方はご一報下さい。 **廣川 隆太**（平11卒）
○現在青森十和田キャンパスに居りますが今年いっぱいですのでがんばります。 **澤井 毅**（平12卒）
○ポリクリと部活（テニス）の毎日です。

高野 光司（平13卒）
○同級生も何人か、東京を離れています。また集まりましょう！ **壇原 聡**（平13卒）

○ついに学生をやめました。今では毎朝、朝ご飯を食べるような日々を送っております。

渡来 智司（平13卒）
○教壇に立って2年目に突入しました。

森 文彦（平13卒）
○4月に入社した会社を1ヶ月でやめて只今就職活動中です。 **川瀬 寿和**（平14卒）

○現在、早稲田大学教育学部理学科の4年生です。来年から、早稲田理工学研究科に進学することになりました。 **片岡 翔**（平14卒）

○本人は現在、アメリカで仕事をしています。 **野澤 直史**（平14卒）

○下関水産大学校で頑張っています。 **長谷川 裕**（平15卒）

○気づけば卒業から3年半、大学も最終学年となり、卒論があわただしくなってきました。教育実習による久々の母校の匂いがなつかしい。

氏橋 亮介（平15卒）
○現在、キャンパスライフを楽しんでいます。

大沢 拓真（平16卒）
○卒業して2年がたちますが獨協時代の仲間とサッカーをしては、つい昨日まで学生服を着ていた感覚になります。 **渡邊 雄介**（平16卒）

○多摩美で思う存分絵を描いています。夢であった絵本作家が今では目標になりました。バンザイ。

松浪 敢（平16卒）
○大学生活を楽しんでいます。

山口 愛司（平16卒）
○元気で大学生活をおくっています。機会があったらみんなで会いましょう。 **皆川 祐太**（平17卒）

○卒業してだいぶたちますが、体重が減り、髪の方も薄くなってしまい、月日の流れは、早いものだと感じてしまうものです。 **清水 一貴**（平18卒）

○無事、大学1年。キャンパス・ライフを期待していたのですが、実験・レポート提出、実験・レポート提出の毎日です。クラブは中・高と同じ、吹奏楽部へ入部。 **小岩 啓明**（平18卒）



クラス会だより

昭和17年卒 山紫会

私達山紫会は会員の高齢化に伴い、毎年続けてきた年会の継続が困難な状況になって参りました。

その為、年会の開催は今回をもって最終回とすることに大方のご了承を頂き、会場としては最適と思われる母校の前の椿山荘（錦水）に於いて去る5月16日正午より開催いたしました。

当日はあいにくの小雨模様の空でしたが、雨に濡れた木々は一段と緑に冴えて美しく、水辺にはカキツバタが花を添えて「雨もまた良きかな」の情景の内に開会されました。

参加された会員 20 名の中には暫く振りに顔を見せた遠来の旧友もあって再会を喜びあい、宴は山田武磨君の音頭での乾杯に始まり、全員の3分間スピーチそして語り尽さない昔話等と延々3時間、忘れかけていた懐かしい校歌も合唱して、流れ解散となりましたが、なかなか別れ難く、すぐ前に改装なった母校の構内で写真を撮ったり、更には目白坂を下って今も健在な関口パン店の喫茶室でコーヒーをすすりながらのオシャレと続いて4時半頃に別れを惜しみながら解散致しました。

最終会ともなれば一抹の淋しさは有りますが、今後とも会員の健勝を祈り、また長い間さまざまなご援助を頂いた獨協同窓会に厚く御礼申し上げます。（吉田 穰・記）



昭和18年卒 獨協一八会

平成18年6月3日（土）恒例の獨協一八会クラ

ス会を「アルカディア市ヶ谷」で開催し、今回 20 名（当日2名欠席）の参加でした。卒業以来 63年、年々出席者が少なくなってゆくのが気になる年齢、それでも毎年、大久間喜一郎先生の出席を頂き、お元気なご挨拶と近況報告の後、美声で歌を披露され、一同大喝采益々のご繁栄を祈り、先生の元気を一同が受け取り、感謝申し上げました。身体不調の便りの多いなか、久々の出席者の出会いもあり、開会前からの賑やかで和やかな歓談に、会は大いに盛り上がり、物故者55名の冥福を祈り、また田中幹事の同窓会・母校の近況報告で、獨協大学創立40周年記念天野貞祐記念館建設・教育設備充実に伴う、諸行事について協力方の報告があり、学園の目覚ましい発展を想うと、感無量のほか言いようがありません。会の今後の発展を念願し、諸兄の益々の健勝を祈り、平成19年6月2日の再会を約し、散会しました。（友田 文夫・記）



昭和20年（4年卒）1組クラス会

5月27日（土）新橋の九州工大鳳龍クラブで平成18年春季クラス会を行った。今回は宴会の前に、最近発展している汐留シオサイトのビルの46階から展望したり、旧新橋停車場や、鉄道歴史博物館、アドミュージアムなどを見学して往時を偲んだが、クラス会では常連が二名も健康を害して欠席したため、クラス会の話題はもっぱら健康談義が中心となった。（桂 義之・記）

クラス会だより



昭和20年卒獨逸語科 芽城会

桜花爛漫と咲き乱れる季節、平成18年4月2日新宿超高層ビル群の中のひとつ三井ビル 54 階にある「聘珍楼」でクラス会を開催した。この日はちょっと雨模様であったが25名の参加があり、昨年喜寿の会に比べてちょっと少なかったのは残念であった。今年の米田武、飯郷昭二の両君であったが、会の直前になって飯郷君が体調を崩したため、米田君一人が設営することになってご苦労だったことと思う。諸兄の返信を通覧すると、毎年のことながら体の不調を訴える者が増えることは、お互い寄る年波には勝てないと思うものの残念でならない。しかし今年は一人の訃報もなかったことをもってよしとしなければならないだろう。昔話に花の咲いた2時間半もあつという間に過ぎ散会となり、また来年の再会を約してそれぞれの帰途についた。（常任幹事 神山 一郎・記）



昭和27年卒 獨協『花の二七会』

梅雨模様の6月23日（金）神楽坂「トリノ」に於て大久間喜一郎恩師のご来駕を仰ぎ、そして一年後輩になるが元獨協大学々長酒井府教授のご出席をお願いして恒例『花の二七会』を開催した。

出席数は先生方を含めて22名、大久間先生の華麗なる歌声のご披露に席は盛り上がり、出席者全員の3分スピーチ、獨協時代の先生方のあだ名の由来等々談笑途切れることなく和やかで愉快的同期会であった。70歳を過ぎた青年達は散会を惜しみつつも来年度幹事の手本の音頭で次の再会を約した。（筒井 昭・記）



昭和31年卒 ドイツ語クラス50周年

お招きした富岡近雄先生に 50 年ぶりの出席をとっていただき、呼ばれた順に席に着き、ピアノ伴奏に合わせて、親子3代獨協卒の小野史雄君のリードで校歌の合唱、31年卒ドイツ語クラス 50周年のクラス会が、獨協同窓会の賛同も得て、はじまりました。

さきに逝った6名の冥福を祈り全員黙祷、先生に6名の思い出を話していただいた後日比谷幹事



クラス会だより

長より、先生の奥方に花束を手渡し長年の感謝を表しました。欠席者の近況報告、そして席順に卒業後半世紀、近況など話し時の過ぎるを忘れた一日でした。
(山口 眞護・記)

昭和31年卒 50周年記念中学卒同期会

私達が、昭和31年3月に懐かしい獨協中学校を卒業してから50年が過ぎました。これを記念して同期の中野聖司君の音頭で平成18年10月20日(金)に銀座7丁目にある獨協倶楽部において同期会を開催いたしました。

連絡先がわかっている30名のうち12名の方が出席いたしました。当日は恩師 神田先生と故菅原先生のご子息 博和氏がご出席くださいました。有我的司会により武曾君の開会の挨拶 ご来賓のご祝辞に始まり、大平君が花束を用意してくれたので田山君たちがご来賓の方に贈呈しました。乾杯は早川君の予定でしたが遅れてきたので高橋君が勤め懇親会に入りました。懇親会はとても楽しく、50年の時の壁がいっぺんに飛び各々近況とか思い出話に花が咲き時を忘れるようでした。皆さんの現在の自己紹介が始まりワイワイガヤガヤ笑いと雑談の喧騒の中、小林君のピアノ演奏がありましたまた来ていた獨協大学4年生の押見君と連弾を聞かせてくれました。やがて小林君の中締めの後、写真タイムとなり皆さん全員で記念写真を撮りました。大平君の謝辞がおわり皆さんの歓声の中、獨協中学校卒業50年目の楽しい宴が終了いたしました。

当日ご出席された皆さんに厚く御礼申し上げますと共にご出席できなかった皆さんにご報告申し



上げます。この次は70歳で昭和34年卒の同期の方と古希を記念してお会いしましょう。それまでお元気でますます楽しくご活躍ください。

(有我 昭蔵・記)

昭和38年卒英語科 英語クラス同期会

恒例の38年卒英語クラス同期会が、平成18年6月24日、アジサイの紫色と香の香りに満ちる浅草にて開催された。蛭名大介さんの尽力によって「ストロバヤ」店に、1年ぶりで8名が集う。久しぶりの友人との語らいに、満足な顔と顔。髪の色、顔の皺には、還暦を過ぎた齢を感じられるものの、声には覇気、内容には若き思想が溢れていた。美食・美酒に酔っての談笑は楽しいひとときでした。また、ピアニスト河村康士さんのCD盤が後日発刊されるという良き話題で散会した。

(辻 定利・記)



昭和40年卒 獨新会

平成18年10月21日(土)銀座「獨協倶楽部」にて昭和40年卒ドイツ語クラス「獨新会」を、篠原先生、国松先生そして小平先生をお迎えして、昨年に続いて開催しました。

今回は、皆が還暦を迎えるために、その祝いという趣旨での開催であったが、それだけではない特別な「獨新会」となった。まず、篠原先生が喜寿を迎えられたという事。皆の心からのお祝いとして花束を贈呈させて頂いた。そして更には、42年ぶりに再会した同朋がいた事。

我が「獨新会」は、ドイツ語を「中学から」と

クラス会だより

高校から”習って卒業した面々から成り立っているが、中学時代3年間は英語専攻組と同居していた。そこで還暦を機会に、”彼ら英語クラスの仲間にも当会に参加してもらおう”との事となり、同窓会名簿を基に声を掛けたところ、7名の諸君に出席して頂いた。この再会は、感動を呼び篠原先生のお祝いと共に、過去最高の盛り上がりとなった。
“今後は毎年開催しようではないか”との皆の意見が一致し、来年の再会を約束して盛会の内に散会した。
(櫻田可人・記)



昭和41年卒 獨協1月会

今年も1月第3週の1月21日(土)に開催しました。高校を卒業してから40年目の会になり、体の自由が効かない年に入ってきました。

前回同様、現役から離れられないがんばり屋の我々世代が毎年1月に少人数でも続けて開催しました。



今回は、珍しく、2組の長村君が獨協通信を読

んで連絡をしてくれて、参加してくれました、神田先生もいつもの様に中国旅行や国内旅行の話をしていただき華やかなうちに、3時間程の時間があつという間に過ぎ去り、来年の再会を願って散会しました。

来年は、横浜の佐藤君と島田君に引き受けて貰う様に森田幹事が連絡を入れてくれるとのことですよ。開催日は、平成19年1月20日(土)になります。
(中村 昭美・記)

昭和48年ドイツ語卒 レボイカ会

連休のさなか、平成18年5月3日(水)午後6時、新宿「はやしや」に集結。多忙な連中なので、予定より少ない参加者だったが、久々に楽しい時を過ごした。

小学校を出たばかりの頃からの付き合いで、当然、かみさんよりは、お互いを知っている。信用がないためか? 配偶者同伴約一名。決して怪しい集まりではないと説明し、共にクラス会を楽しんでもらった。

そろそろ還暦も視野に入ってきたが、参加者の様子を見ると、これからますます元気になりそうだ。(青木、宇山・同夫人、木内、佐藤重、鈴木、村上、渡辺、岡村、岡村 哲夫・記)



杉並獨協会

梅雨の走りを思わせる雨模様の5月27日の昼下がり、昨年に続く2回目の「杉並独協会」が区内の中心部・阿佐ヶ谷の「鈴江」で開かれた。中

クラス会だより

学・高校の6年間に加え母校で数学を40年以上にわたって指導された、南荻窪在住の金先生の肝煎りで発足した集まりだ。

戦後すぐ入学された大先輩から、平成卒までおよそ30人が顔を揃えた。始めのうちこそぎこない空気だったが、ビールやお酒がまわり、自己紹介に移るころにはにぎやかな宴となった。年長の方たちは、都心から目白に通い卒業してから杉並の住人というケースが多く、東京の市街の拡大をみる思いがした。町内のごく近所に同窓の先輩がいるのも驚きだった。

独協らしく医療関係のOBが多いのは予想通りだったが、建築関係の仕事をされている方が意外に多く、「耐震偽装問題」について詳細な解説が相次いだ。さまざまな分野で活躍される姿に「多士済済」の感を強くした。天野先生の「学校の優等生ではなく社会の優等生になれ」の言葉が脈々と受け継がれているのだろう。

久々に耳にした「旧独」「新独」の用語が飛び交



う頃には座は乱れあちこちでグラスの応酬となり、だれが言うともなく「緑は深し城西の」を車座で歌い、来年の再会を約して散会した。

(松下 浩・77年度卒)

放送部OB会

昭和46年度卒業生から平成2年度卒業生までで構成されている生物部OB会です。春に顧問の清棲先生を御招待して開かれる正式のOB会、8月15日に有志が目白台の栄和楼に集まる栄和楼大会、の年に2回OB会を行っております。今回の参加者は里村、松下、菊池、湯澤、酒井、小林、森山、大塚、杳沢の9名でした。S46～H2年度卒業の生物部OBの方でOB会の連絡が無く、参加を希望の方は55年度卒の湯澤 yuzako@kitanet.ne.jp まで御連絡ください。特に同期の沼部君待っています。(湯澤 寛・記)



母校近況 “Dokkyo Mejiro vol.1” より

ビオトープづくり隊とともに

環境教育委員会 大山 智輝

「何?! ビオ●※△?」「バイオ何とかじゃなくて?」

ビオトープという用語すら校内ではほとんど知られてはいなかった半年前、このプロジェクトは動き出しました。きっかけは校長先生の構想でし

た。図書館前の約十メートル×二メートルの植え込みに池をつくって、太陽電池を使ってポンプで水を循環させて小川をつくり、ビオトープにするというものです。当初は業者委託も考えましたが、検討を重ねた末、そもそも学校でつくるのだから生徒と一緒につくろうじゃないかということになったのです。

そして5月、モビオトープづくり隊は結成されました。全校生徒に呼びかけて数日、「こんな都心の私立男子校に通う生徒が土いじりに興味あるだ

ろうか」という不安をよそに、私の手元には想定をはるかに超える六十名弱の参加申し込みが届いていました。

ビオトープづくり隊は、まず、アドバイザーをお願いした多摩動物公園の浅井ミノル先生(本校OBの保護者)をお迎えして学習会を実施。次に、ビオトープのデザインコンクールをして、三名の優秀作をもとに設計へ。そして夏休み、いよいよ作業が始まりました。当面の目標は池づくりです。しかし、掘ってみるとそこは校舎建築時の瓦礫だらけ。池の底に薄い防水シートを敷くため、鋭利な瓦礫はすべて取り除かなければなりません。炎天下、ほとんどの時間をこの作業に費やし、池づくりに六日間。最終日、日が暮れかかる中で水面を見つめるみんなの笑顔は印象的でした。

この校報が発行される頃には残りの作業も終わって、ビオトープづくり隊も解散することになると思います。しかし、真のビオトープづくりはこれ



夏休みや放課後を利用して、生徒やご父兄の方々の協力で、校舎の北側に「ビオトープ」を完成させました。「ビオトープ」とは人間の生活する場で生物が育つ生活空間をさします。(昭50卒 数学科教諭 本木 喜崇)

から。主役は、人間から自然の中の生き物たちへと代わっていきます。一年後、二年後、ビオトープは、そして、づくり隊の生徒たちはどうなっているのか、これからがまだまだ楽しみなビオトープです。

～ビオトープとは・・・～

ビオトープ(Biotop 独語)は、「Bio(生き物)」と「Topos(場所)」の合成語で、野生生物が生まれ育つ自然空間のことを指します。森林や湖沼・海などもビオトープといえますが、一般的には「人間の生活する場で」といった但し書きがつき、環境保全や環境教育の観点から人工的につくられたものを指します。最近では、学校と地域の生態系とのつながりを考えてつくる「学校ビオトープ」ということばも知られるようになってきました。この二月に行われた「全国学校ビオトープ・コンクール二〇〇五発表会」は秋篠宮・同妃両殿下もご出席されて話題になったのでご記憶の方もいるかもしれません。

獨協中学・高等学校の教育

校長 永井 伸一

このたび校内だけを対象とした学校だよりから校外をも対象とする校報誌が発刊することになったが、これを契機として獨協の教育を原点に戻って述べてみたい。

獨協中学高等学校は一八八三(明治十六)年、獨逸学協会学校からはじまった。その教育理念は西周初代校長の知育・徳育・体育であった。草創期から明治時代を通して日本を牽引する人材を輩出し、医歯薬の獨協といわれた輝かしい時代であった。

その次の中興期は第二次世界大戦後、一九五二年(昭和二十七年)年に天野貞祐先生が第十三代校長

に就任され、カント哲学の道徳的・実践的理念を基にした天野理念「教科教育を通じての人間形成」が加わり新生獨協がスタートし、今日に至っている。天野理念をわかりやすくいうと、感性豊かな、上品な人間の育成であり、よりよい社会造りに貢献できる人間の養成である。獨協中学高等学校ではこの教育が現在も続いている。

一方、現代社会を支配している西欧文明はデカルトやベーコンの自我を中心とした、合理的秩序を基にしたものである。しかしその近代自我は自然を征服することだけが理性的であったが、人間の内側は欲望に左右されてしまったといえる。それによって地球が汚染される結果となり、地球環境破壊がもたらされたのである。

これからの世紀を人類が生き残るためには、人類全体が人間と他の生物との共存を図らねばならない。この生活態度を養うにはまず、人はひとりでは生きていけない、人はいかに多くの生物や他の人々に支えられて生きているのかということを知ることである。

そのためには「アタリマエのことがあたりまえに出来る人間」になることである。社会が円滑にいくための基本はコミュニケーションをしっかりとすることである。そして、それは挨拶から始まる。「オハヨウ」、「サヨナラ」、「アリガトウ」、「スミマセン」である。さらに精神的強さ、我慢強さ、集中力、利他の精神等を身につけることで、「人類と他の生物との共存」は推進できる。

幸い、わが国には昔から人間と自然との調和を行ってきた「里山」での生活があった。それは下草を刈ったり、伐採を行ったりして山林を管理することによってきれいな、豊富な水造りがなされ、川や水田には魚、水生昆虫、タニシ、カエルなどが生息する豊かな自然が作り出されていた。

里山は人間社会に自然を取り込んだのではなく、

事務局だより——事務局 Eメールアドレスは—dokkyou-dousoukai@ma.newweb.ne.jp—

同窓会事務局は白須賀さん、大蔵さんのお二人にご尽力いただいておりますが、現在は毎週水曜日に同窓会室に詰めて頂いております。なお、年末年始は平成 18 年 12 月 20 日から平成19年 1 月10日まで冬休みとなります。

同窓会事務局へのお問い合わせ及び住所、連絡

編集後記

本号では 10 月 22 日に創刊されました獨協中学・高等学校校報誌“Dokkyo Mejiro vol.1”から永井校長の「獨協中学・高等学校の教育」と最近学内に設置されたビオトープの紹介記事を転載させて頂いております。母校の近況を知る一助にして頂ければと考えています。

さて、編集子が獨協通信の編集を担当するようになり、すでに数号が発行されましたが、編集子の非力と怠慢で毎号原稿が十分に集まらず関係各位にご迷惑をおかけしています。そんな編集子を見かねた執行部、幹事の方々から楽しい企画をご提案頂きました。

我々同窓生が学生時代を過ごした時期に母校で教鞭を取られていた先生方に、当時の思い出や近

自然の流れの中で物質を循環させる生活を行っていたのである。このような自然の循環の中での生き方ができるような考え方を学習し、成人してから地球環境の維持の推進者として活躍できる人材の養成をしたいと思っている。

限りない科学の発展が全世界の生物を救うことになると思うが、そのためには共存のための哲学が無ければ科学の知識は役に立たない。環境問題は知識だけでは進まない「あなたは地球環境のために何ができるか、何をしているか」が大切で、これを教育の中で実行することである。

やがて世界がひとつになるかもしれないが、宗教の違い、民族の歴史による文化の違いにより、その立場が異なっているのが現状である。しばらくはこの異文化の理解のための教育も必要であろう。

このように環境と文化を基調とした教育がこれからの獨協の教育であり、日本の教育であると思う。これを推進するためにはさまざまな分野での高い学力が必要になる。それぞれの教科で全力を挙げて取り組んで欲しい。

先変更等のご連絡は是非水曜日にお問い合わせください。勿論、ファックス、メールでのご連絡は常時可能ですので、そちらのほうは適宜ご利用ください。

電話番号、ファックス番号は03-3946-6352

況などをご執筆いただければどうかというご提案です。現役でご活躍の先生方、すでに退職された先生方に是非一文を寄稿していただこうと考えています。編集子の中学、高校時代の主管は残念なことに在学中に亡くなられたり、十数年前に鬼籍に入られ、親しくご指導頂いた先生は現在はおられません。それぞれの教科の先生方の中には卒業以来お目にかかる機会の無いままになっている先生もおられます。そういった先生方の消息が掲載できればとも考えています。つきましては、同窓生の諸兄に置かれましては、寄稿をお願いしたい先生方のお名前をご連絡いただければ、鋭意ご執筆をお願いしたいと考えています。よろしくお願いたします。(竹文)